

10. 高野山世界遺産研修

「総合的な探究の時間」の学習の一環として、本校1年生を対象として実施。地域の世界遺産である高野山を題材として歴史や文化について学び、現地研修を通じて生徒一人一人が自分の目で確かめ、なぜこの地域が世界遺産に登録されたのか、世界遺産の価値や魅力を多くの人に知ってもらうためには何が必要かについて探究することを目的とする。複数の教科がその内容を扱うことで、生徒一人一人の視点でテーマを持ち、他者に伝える力を養うと同時に、探究の方法、発表の仕方を学ぶ機会となった。

【実施概要】

①世界遺産訪問事前学習

日時：2学期

目的：事前学習を通して、世界遺産高野山の文化・歴史への学びを深め、地域にある世界遺産の価値や魅力について理解する。

内容：①冊子「世界遺産高野山～高野山の魅力を学習しよう～」を用いて学習する。

②各教科の授業の中で、高野山の歴史・文化・自然についての内容を扱う。

②世界遺産講演

日時：11月10日（金）6，7限（体育館）

目的：事前に世界遺産高野山への訪問先や学ぶ目的を考え、今後の探究活動に役立てる。

内容：講演 高野山大学 山口文章氏「天空の聖地 高野山 世界遺産たる所以」

③世界遺産訪問

日時：11月28日（火）

場所：高野町

目的：世界遺産高野山の文化・歴史への学びを深め、地域にある世界遺産の価値や魅力について理解することで、探究活動に役立てる。

内容：精進料理、奥の院（観光ガイド）、市内散策（壇上伽藍など）

冊子「世界遺産高野山～高野山の魅力を確認しよう～」を用いて学習内容をまとめる。

持ち物：学習冊子、筆記用具、一人一台パソコン

④世界遺産訪問事後学習

日時：2学期

目的：訪問学習を通して学んだことを振り返りまとめることで、世界遺産高野山への学びを深め、今後の探究活動に役立てる。

内容：①冊子「世界遺産高野山～高野山の魅力を確認しよう～」を用いて学習内容をまとめる

②冬休みの課題など各教科と連携。

【教科学習】

今年度は3教科の協力を得て、校外研修前に各教科1時間～3時間の授業を行った。

① 【歴史総合】

世界遺産を知ることは、その国・地域の文化や歴史、風土を知ることにつながる。まずは、「世界遺産」とは何なのか、そして、「紀伊山地の霊場と参詣道」について考察する。

② 【論理表現 I】

高野山校外学習において、自分が紹介したいと思う物の写真を撮り、その写真について英語で1～2分程度説明する。その際、パンフレットに載っているような内容ではなく、自分の視点で興味を持った事柄や、高野山について全く知識のない海外からの留学生や旅行者（特にアジア圏）の関心をひくような内容になるように工夫する。論理表現の授業内で、クラスに向けて発表。3学期のパフォーマンステストとして評価に含める。1月11日～17日に授業内で実施。

③ 【保健】

精進料理とは何か。食と健康との関わりについて学習する。

【世界遺産講演】

11月10日（金）に世界遺産講演会として『天空の聖地 高野山 世界遺産たる所以』を本校の体育館で行った。

高野山大学より、山口文章先生をお招きし、高野山についての講義を聞く。講義内容をもとに、校外研修当日にどのような点について調べるのか、各自で事前に考える機会とする。



【事前・事後学習】

事前学習については、11月16日（木）LHRの時間を利用し、本校の武道場において学年全体で行った。

内容としては、高野山校外学習の日程について確認した後、歴史総合の時間に学んだ内容や、山口先生の講義を参考に、高野山内自由散策の予定等各自の行動計画をたてる。

事後学習については、各自で家庭課題とした。ただし、「論理表現Ⅰ」についての課題があったため、世界遺産について伝える意識を持たせることを意識した。また、和歌山県で行っている「ふるさと検定」を用いることで、知識の定着をはかった。

【世界遺産実地研修】

1月28日(火)高野山校外学習を実施した。参加者は、1年生全員、教員13名、コーディネーター1名。

1年生5クラス191名を2班に分け、午前中は壇上伽藍見学、精進料理体験、奥の院散策(ガイド付き)を実施、午後は総合的な探究の時間で課題研究を行っている各班で高野町内を自由散策する時間とした。自由散策においては、2つの課題を設定した。まず1つ目が、金剛峯寺または霊宝館の見学を行うこと、2つ目が町内で働く人、また国内外からの旅行者にインタビューすることである。海外からの旅行者も多い中、非英語圏からの旅行者へのインタビューを試みるグループもあり、各班とも充実した研修を行う様子が見られた。



【世界遺産研修に関連した活動】

①和歌山大学との交流授業

1月23日(火)に和歌山大学において、留学生との交流授業を実施した。参加者は論理表現Ⅰのクラスより生徒20名、教員2名、コーディネーター1名。

和歌山大学日本語日本文化講座を受講している、中国、ウズベキスタン、インドネシア、スリランカ、ベトナム、インド、ブラジルからの留学生7名と、本校1年生20名で交流授業を実施。高野山校外学習の内容について写真とともに英語で紹介し、その内容について留学生の感想や意見を聞くと同時に、留学生の出身国について学び、興味関心の幅を広げる機会となった。



②大阪観光大学との交流授業

3月15日(金)、19日(火)に本校において、大阪観光大学の留学生との交流授業を実施する。(予定)

大阪観光大学留学生(中国、インドネシア、韓国、モンゴル、ベトナム)と交流。高野山のことを全く知らないアジア圏の留学生に、日本語、または英語で発表し、意見交換を行う。

1 1. S D G s 企業研修

「タオル製造」を通してS D G sに積極的に取り組む企業を訪問した。「生態系と共生する」という企業活動の考え方や取組を聞き、S D G sへの理解を深めることができた。生徒は広い視野を持ち意欲的に活動する企業家の姿に刺激を受け、今後の探究活動への意欲を高める機会になった。

【実地概要】

①教職員企業視察

日時：6月30日（金） 13時30分～15時00分

場所：株式会社 スマイリーアース（大阪府泉佐野市上之郷2384）

目的：S D G sに積極的に取り組む企業を視察することで、企業活動の考え方や取り組みについて理解を深め、生徒への教育活動に役立てる。

内容：工場見学、生徒企業訪問打合せ。

②生徒企業研修

日時：9月7日（木）～9月9日（土）

場所：株式会社 スマイリーアース

目的：S D G sに積極的に取り組む企業を視察することで、企業活動の考え方や取り組みについて理解を深め、探究活動に役立てる。

内容：工場見学、S D G sに積極的に取り組む意義と実践内容を聞く。



	9月7日（木）	9月8日（金）	9月9日（土）
10:00～11:30		2年D組	2年B組
14:30～16:00	2年A組	2年E組	2年C組



1 2. SDGs大学実地研修

総合的な探究の時間の課題研究において、SDGsに取り組む中での課題について考察するとともに新たな視点・価値観を発見する機会とし、協働的・主体的に取り組む態度を培った。大学の取組や環境を実際に目にしたことは、進路を考える上で選択の幅が広がったとともに、進路意識も高まった。

【実施概要】

日時：8月28日（月）

場所：①関西大学（2A・2B）②大阪教育大学（2D）③大阪公立大学（2C・2E）

目的：高等教育機関との連携により、生徒の今後の探究活動につなげる。実際に現地において、大学の取組や環境を経験し、さらに大学生との交流を行うことにより、探究活動および進路の両面において、広い視野の獲得に繋げる。

内容：SDGsについての講演、ワークショップ、研究室・施設見学、学生との交流、大学説明



【研修内容】

①関西大学コース

時間	内容	備考
10:30	キャンパス到着	総合図書館前
10:50	・SDGs取り組み紹介 ・SDGsキャンパスサポーター紹介 ・ワークショップ ・フィールドワーク	会場 第2学舎4号館 F401教室
12:30	学食体験	凜風館2F 食堂
13:30	集合	悠久の庭
13:40～ 14:30	大学概要説明 (概要＋入試説明)	会場 第2学舎4号館 F401教室

②大阪教育大学コース

時 間	内 容	備 考
10:00	キャンパス到着	
10:10	大学説明	会場 会議室 C1-105
10:40	SDGs についての説明 (種田将嗣准教授)	
12:00~	食堂利用等の説明、集合時間の説明	
13:00~	A 学生との交流 B 太陽光パネル等見学と実験	※AB2班にわかれて交代で行う。
14:00~ 15:00	学内見学	附属図書館、音楽棟、体育館、語学支援ルーム、キャリア支援センターなど

③大阪公立大学コース

時 間	内 容	備 考
10:30	キャンパス到着	
10:45	全体講演(藤原宣夫教授) ・住み続けられる街作りを ・陸の豊かさも守ろう	会場 B4棟4階大講義室
12:15~	昼食	生協食堂
13:00~ 15:30	A 研究室見学(①~⑤) B 昆虫標本室(⑥⑦) C 植物工場(⑧~⑩) その後、移動して、全員がA~Cをすべて 見学する。	A B11棟 研究室 B C19棟 昆虫標本室前 C C21棟 植物工場 ※各グループ5分前には該 当場所へ到着すること。



1 3. 他校（小学校・他府県）・海外（オンライン・留学生）交流

【他校との交流】

①和歌山県橋本市立橋本小学校

日時：7月28日（金）9：00～12：00

場所：橋本市立橋本小学校（和歌山県橋本市市脇5-3-8）

目的：小学生が喜ぶような企画を自発的に考え、運営することにより思考力や判断力、および責任感を持つことを経験する。また、異年齢の他者とのコミュニケーションを図ることにより、視野や価値観を広げる。

内容：橋本小学校にて実施されたイベント「夏に挑戦」にボランティアとして生徒が参加した。このイベントは、地域の方や教員が考えたゲームなどに小学生が参加するといったイベントであり、当校の生徒は「小学生に喜んでもらえるイベントの企画」を目標に一から企画・準備・運営をおこなった。参加者は、1、2年生35名。



②和歌山県橋本市立城山小学校

橋本市未来プロジェクトにSDGsを題材として参加している城山小学校の児童と、2回に渡り交流をおこなった。

A 城山小学校6年生来校

日時：11月17日（金）5限

場所：橋本高校（会議室および、2年生各HR教室）

目的：小学生へのプレゼンテーションや交流を通して、視野や価値観を広げ、支援の在り方についての理解を深め、探究活動に役立てる。

内容：自分たちのSDGsの課題解決への取り組みを説明し、小学生と意見交流する。



B 城山小学校訪問

日時：12月11日（月）13：45～14：30

場所：城山小学校（和歌山県橋本市城山台2-10-2）

目的：小学生との交流や教育実践に関わることを通して、視野や価値観を広げ、支援の在り方についての理解を深め、探究活動に役立てる。

内容：2年生希望者（10名）が環境学習に取り組む小学生に対して、意見や助言を行う。





③北海道釧路湖陵高校

日時：2月2日（金）5限

場所：2年生各HR教室（オンライン交流）

目的：総合的な探究の時間で発表された内容をもとに、県外高校生とSDGsについて発表し、意見交換を行なうことで新たな視点を生徒間で共有し、探究学習を深化させる。

内容：各クラスの代表チームがビデオ会議システムであるZOOMを使用し、相手校に1年間の研究の成果を発表した。その後、相手校の発表も聞き、互いに質疑応答をおこなった。最後には各クラスで交流をおこなった。

【海外との交流】

①和歌山大学との交流授業

日時：1月23日（火）5限～7限

場所：和歌山大学

目的：留学生との交流を通して、世界遺産についての認識や互いの文化への理解を深めるとともに、グローバルな視点や考え方を培い、自らの考えを発信する力を身につける。

内容：「総合的な探究の時間」で取り組んでいる世界遺産学習の一環として実施した高野山での校外研修において体験した内容を、和歌山大学の留学生に英語でプレゼンテーションを行い、意見交換することを通じて、世界遺産への認識や異文化理解を深める。参加者は論理表現Ⅰのクラスより生徒20名、教員2名、コーディネーター1名。交流授業は、和歌山大学日本語日本文化講座を受講している、中国、ウズベキスタン、インドネシア、スリランカ、ベトナム、インド、ブラジルからの留学生7名と、本校1年生で実施された。本校生徒が高野山校外学習の内容について写真とともに英語で紹介し、その内容について留学生の感想や意見を聞くとともに、各留学生の出身国について学び、他国に対する興味関心の幅を広げた。



②大阪観光大学留学生交流

日時：3月15日（金）2限3限 3月19日（火）4限

場所：本校（各HR教室）

目的：観光学を学ぶ留学生のプレゼンテーションや意見交流を通して異文化理解を深め、探究活動に役立てる。

内容：大阪観光大学留学生（中国、インドネシア、韓国、モンゴル、ベトナム）と交流。アジア圏の留学生に、日本語、または英語で発表し、意見交換を行う。1クラスについて、4名の留学生が入り、クラス全体およびグループ別で交流を行う。

③フィンランド バーサリオン高校との交流

日時：1月26日（金）7限

場所：本校（2年D組HR教室・選択Ⅱ教室・生物教室・会議室）

目的：海外高校生との文化交流等を通して、海外や異文化に対する理解を深める。

内容：自己紹介、学校紹介、文化交流



④マレーシア カレッジ ダトゥ パティンギタ アパン ハジ アブディラ学校との交流

日時：2月1日（木）3限

場所：本校（2年B組HR教室・選択Ⅱ教室・生物教室・会議室）

目的：海外高校生との文化交流等を通して、海外や異文化に対する理解を深める。

内容：自己紹介、学校紹介、文化交流



※その他 3月に以下の学校と交流予定

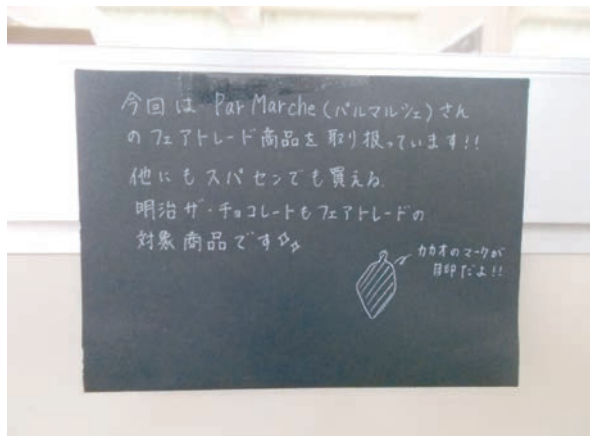
オーストラリア クリスチャンカレッジ高校（2年A組・C組）

台湾 国立竹南高級中學（2年E組）

14. その他

①【文化祭での実施】

令和4年度にフェアトレードの課題に取り組んだ生徒たちが、文化祭で販売を行った。フェアトレードについてのパネル紹介とともに、実際の商品を紹介販売したことで、多くの生徒や教員が関心を持つ機会となった。また、自分たちの取り組みを実現させることで、多くの気づきや発見、新たな課題を知ることとなり、学ぶ意欲に繋げることができた。



第3学年「総合的な探究の時間」SDGs卒業論文に向けて

「自分が選んだ道を正解にする力」

- 1 世界の未来をつくる力
自分が生み出す「価値」は世界に通用することを理解する
- 2 描いた未来を実現する力
未来をつくる具体的な方法を手に入れ、自身の可能性を理解する
- 3 自分で目的を設定する力
世の中にどんな感情を生み出したいのかを考え、自分で目的設定し、その実現に導く
- 4 距離を把握し、挑戦を始める力
力があるから挑戦できるのではなく、挑戦するから力が身につくことに気づく
- 5 あらゆる人の立場で価値を生む力
視点を他者に切り替え、あらゆる人の立場からの視界を手に入れる
- 6 AI・ロボットには奪われない力
今、予想されている未来を把握し、次世代に求められる力を身につける

◎文章を書くために

- 「①書くべき事柄があること（テーマ）」→明確な題材（発想力）
- 「②そのテーマに関連するネタがあること（情報）」→内容（情報収集力）
「A 必要な情報を見極める」「B 必要な情報を手に入れる」「C 情報の質を判断する」
- 「③書ける立場であること（経験）」→一定の知識や知見、経験

でも、これらはすべて方法論（テクニック）にすぎない！

◎「SDGs卒業論文」を書くために

重要なのは、方法論よりも「動機の確認」です。

「何のためにこの文章を書くのか」をはっきりとさせる、自分の目的を明確にして、それを常に確認しながら書くことが大事なのです。その動機となるのが、みなさんの「進路」です。具体的なものでなくても構いません。ここでいう「進路」とは、自分がどう生きていきたいか、そして、これからの自分を取り巻く世界がどうあってほしいのかということです。それはみなさんの「生きる意味」といってもいいかもしれません。人生に何を求めるのか。何を大切にしたいのか、譲れないものは何なのか。そのような自分自身の将来に関わる「問い」が、このSDGs卒業論文の根幹を支える「動機」につながります。

このSDGs卒業論文は、これからの将来の自分への「志望理由書」です。

【3年間の感想】

- 年齢にかかわらず、勉強し続けることが大切だと知った。
- SDGsについて学習できてよかった。この機会にとどまらず、知ろうとする姿勢を保ち続けることが必要だと思った。
- 受験の面接などで話すことができるので、良い経験であったと思う。いろいろな考えを知れてよかった。
- 課題をもっと深掘りすることができたら、もっと良くなったかなと思う。自分たちで課題についてよく考えて、発表したり、行動したりするのは良い経験になった。
- 班メンバーと方向性を合わせなければならぬから、独特な路線を進めると興味がない人もできてしまい、皆、似たような話になるような気がする。
- 総合的な探究の時間の発表会はすごくよかった。他学年の発表では、1年の時に自分たちが考えた点とは、また違うものを見ることができておもしろかった。
- 多くのことを学び、自分の知識を仲間と話し合い、高めることができた。
- 教室で黙々と作業するだけでなく、テーマに詳しい専門家とオンラインで対話する機会があり、貴重な経験だと思った。
- 全体を通して、調べ学習のようになってしまったが、自分で「何か」を成し遂げることが重要だと知ることができた。
- 3年間、地域のことや環境のことについて知ることができたので、これからの活動で少しでも問題解決に向けて取り組んでいきたい。
- 期限のぎりぎりまで仕上げてしまったので、この総合的な探究の時間で、予定を立てて行うことがとても大切だと気づきました。みんなと話し合い、意見を聞くことも大切だと感じました。
- 今まで将来について明確に考えていなかったけれど、これをきっかけに進路について色々と考える時間を与えてくれた。
- この授業を通して、様々な課題について考えることができ、社会を見つめ直すことができた。
- 課題解決の難しさを学んだ。だからこそ、早く行動していくべきだと思う。
- 全学年での交流があれば、1年生が何をどのようにおこなっていけばよいかを具体的に知ったり、アドバイスをもらえたりと、行動へのハードルを下げることができると思う。また、研究の継続もできるようになると思う。
- 面接で話すときに、とても貴重な材料となった。SDGsと自分の進路を直接関わらせることが難しいときもあったが、別の目標を調べてみることで、新しい視点を手に入れることができた。できるだけ、その道の人のお話を聞く機会があつてほしい。
- 自分のこれから生きる社会について考える機会を持つことができたというのは、これからの人生の糧になると思う。改善点としては、どうしても提案だけになってしまい、実際に試すことができないため、やっていることがおもしろくないということになっていることだ。もし、やっていることが実際に実現するなら、活動することがより面白くなると思う。
- 目標を最初から設定して、その目標を達成するために、作戦・計画を立てていくことが大切である。途中で、自分たちが何のためにこの活動をしているのかがわからなくなってしまうときがあったから。